

山陽小野田市都市計画マスタープラン改定委員会 第3回 議事録

■ 開催日時・場所

平成30年10月17日（水）9時30分～11時40分
山陽小野田市役所 3階 第2委員会室

■ 次第 開会

- 1 開会
- 2 報告
 - (1) 第2回改定委員会以降の取組状況
- 3 議事
 - (1) 第2回改定委員会における意見とその対応
 - (2) 都市づくりの基本目標
 - (3) 全体構想
- 4 その他
- 5 閉会

■ 資料

- 資料－1：山陽小野田市都市計画マスタープラン策定に向けた高校生アンケート調査報告書
資料－2：都市計画きらきら会議報告書
資料－3：都市計画マスタープラン施策評価総括表
資料－4：都市づくりの基本目標（検討案）
資料－5：全体構想（検討案）
資料－6：第2回改定委員会にて出された意見等と対応について
資料－7：「協創」についての説明

■ 会議風景



■ 出席者名簿

敬称略・順不同

区 分	氏 名	所 属	委 員	出欠席
学識経験者	鳩 心治	山口大学	工学博士	出席
団 体	金子 敦子	山口県景観アドバイザー		欠席
	村上 景二	山口県建築士会 小野田支部	推薦委員	出席
	畑 善高	小野田商工会議所	推薦委員	出席
	原 孝造	山陽商工会議所	推薦委員	出席
	山根 健	山口宇部農業協働組合	推薦委員	出席
	平田 武	山陽小野田市社会福祉協議会	推薦委員	出席
市 民	穂本 真一	公募	公募委員	出席
	大田 正登	公募	公募委員	出席
	滝 将彦	公募	公募委員	欠席
関係行政 機関の職員	工藤 展照	山口県都市計画課	職員	出席
	佐々井 浩之	山口県宇部土木建築事務所	職員	出席
事務局	森 一哉	建設部長	職員	出席
	河田 誠	都市計画課 課長	職員	出席
	高橋 雅彦	都市計画課 技監	職員	出席
	大和 毅司	都市計画課 係長	職員	出席
	佐久間 庸次	都市計画課 主任技師	職員	出席
支援 事業者	八木 周吾	ランドブレイン株式会社 山口事務所 所長		出席
	鈴木 将光	ランドブレイン株式会社 広島事務所 主任		出席
	駒井 達也	ランドブレイン株式会社 広島事務所 主任補		出席

■ 議事録

1 開 会

(事務局より開会のあいさつが行われた)

2 報 告

(事務局から高校生アンケート、都市計画きらきら会議、都市計画マスタープラン施策評価について報告が行われた)

3 議 事

(1) 第2回改定委員会における意見とその対応

(事務局より説明が行われた)

- | | |
|-------|---|
| 委 員 長 | 6点、前回の意見の対応が示されている。半分以上は、本日の議題のなかで事務局から説明があるとのことだが、資料6、資料7については何かご意見はあるか。 |
| 委 員 | 耕作放棄地への対策と農業環境の維持に関する対応についてだが、実際問題として農業は儲からない。畑も増えてきてはいるが、稲作に特化している。一般の農産業であれば室内なので天候に影響されないが、農業そのものが、特に台風や地震など、天候に左右される。実際にかかった費用と収入を考えるとアンバランスでメリットがない。現在の農協は、農業のためにある農協でありながら、現実には金融に力を入れている。金融に力を入れることによって農業そのものが成り立つという考え方である。本来は、農業を振興し農民のために農協があるべきであるが、農協のための農業になってしまっている。それでは、耕作放棄地が増えるのはやむを得ない。そういったことへの対策がなされないと耕作放棄地の根本的な解決にならない。 |
| 委 員 長 | 山陽小野田市では、遊休農地の発生における具体的な取り組みは、個別計画である農業振興地域整備計画で示されている。都市計画マスタープランとしては、個別計画を尊重し、「優良農地の保全」の記述に留めるとというのが事務局の対応である。この策定委員会は都市計画マスタープランを改定する立場で議論していくので、個別の農業の問題は農業振興地域整備計画に委ねることをご了承いただきたい。 |
| 委 員 長 | 先程説明があったアンケート及び都市計画きらきら会議の結果は、地域別構想で反映されるということなので、第4回の改定委員会でどのように反映されるかを議論したい。 |
| 委 員 | なぜ高校生にアンケートを実施したのか。高校生が将来的にどれくらい山陽小野田市に残るのか。あまり意味がないのではないか。 |
| 委 員 長 | 次回の第4回で地域別構想に反映されたものが出てくる。その時に意見をお聞きしたい。 |

(2) 都市づくりの基本目標

(事務局より説明が行われた)

- 委員長 只今説明があった都市づくりの基本目標について、何か質問があればお願いしたい。
- 委員 都市づくりの基本理念の①に、「都市機能の充実とネットワークの強化により」という表現がある。強化とは、バスや鉄道の本数を増やすのだろうかと思うが、それは実現可能なのか。そういった方針でいくのか。
また、「ネットワーク」とは公共交通と情報という位置づけで良いのか。
- 委員長 ネットワークをどのように考えているのか。ネットワークとは公共交通と情報の位置づけでよいのか確認したい。また、今後行政として、「都市機能の充実とネットワークの強化」について、どのような施策を考えているのかとのことである。事務局の意見を伺いたい。
- 事務局 ネットワークについては、交通や情報などがある。現在、地域公共交通網形成計画の策定を進めており、公共交通等の見直しを進めている最中である。情報については、ネット環境の普及もあるが、情報を知って動き出すという流れがあり、これから更に盛んになっていく。情報発信と、情報も含めて交通やネットワークで各地域を結びたいという想いもあり、強化を理念として示している。
- 委員 高校生のアンケートにも交通手段を強化してほしいという意見があった。そういった計画があるなら、それに期待したい。路線バス等は市が補助をしないと運営できないという現実もある。逆行までではないが、現実強化ができるのかという心配がある。
- 委員長 ここでは、ネットワークの「維持」ではなく、「強化」となっている。公共交通は維持するのも大変である。頑張っていたかかないと今のご指摘のような話になる。地域別構想を進めるなかで、具体的な話を検討いただきたい。
- 事務局 今回示しているが、今後地域別構想、実現化方策を進めていくなかで、表現を変更する可能性はある。
- 委員長 これからの都市づくりの拠点を設定し、それを強固に結びつけていくという考え方が今の社会のオーソドックスな考え方であるが、ネットワークの維持・強化の政策の中身が非常に重要である。表現はどうあれ、今後、中身について素案を出していただき、この委員会で方向性について意見を賜わり、進めていきたい。
- 委員 今後10年間のまちづくりだが、認識する必要があるのは、人口減少、高齢化だと思う。将来の人口は58,000人を目指すとしているが、人口減少の流れは変えられないと思う。コンパクトシティとネットワークの強化を進めていくなかで、インターネットを使えない高齢者や今の場所を離れられない高齢者も沢山いる。そういった人達をネットワークでどうやって繋いでいくか。その辺りを議論してもらいたい。
防災面では、自然災害は今後酷くなっていく。最初に何から始めていくのか。一度水害が起こると、まちは一気に人口減少が起こり、その対策で莫大なお金が必要である。

自然災害が起きそうなところは事前に早めに手当てをしていくことが必要である。防災ラジオも更なる普及が必要である。

人口減少するということは税収が減るということである。公共工事もその手当ができなくなっていくことは間違いない。10年後の58,000人で維持ができる体制を議論していく必要がある。

空き家も発生しており、これをどう活用していくのか、他所から来た人を無料で住ませるぐらいの構想を立てていかないと人口は増えないと思う。目標は58,000人だが、54,000人になると山陽小野田市の財政そのものが持たなくなる。

委員長 整理すると、1つ目は、少子高齢化の社会背景のなかでコンパクトにするという理念は良いが、集約化してネットワーク化するなかで、そこに乗らない、あてはまらない層が出てきた時にどうするかということである。

2つ目は、一度大きな災害が起これると大きな被害が継続的に引き続き起こってしまうので、防災に先行的な対策を打つべきではないかということ。

3つ目は、少子高齢化の社会背景のなかで、財政的に大丈夫なのか。財政の関連で説明を追加した方が良いのではないかとのこと。

4つ目は、空き家の問題である。集約化を考えても、空き家が沢山あれば中心市街地に誘導できないのではないかとということ。

前回、立地適正化計画の策定の検討が望ましいという話があったが、それに近いご指摘かと思う。国も今のご指摘のことに對して早めに手を打ち、計画に盛り込むように言っている。今の意見からも立地適正化計画の策定が必要であることが伺える。

事務局 今言われた意見はとても大切なことであるが、難しい問題でもある。

最初の意見については、郊外に住む高齢者も市民であるので守らなければならない。対応については、都市計画課だけでなく他部局も含めて考えていくべきものだと思う。

防災については、事業を進めていくにはお金も時間もかかるので、防災だけでなく減災についても説明していくことになる。浸水する前の避難の方策も考えていく。

空き家については、空き家等対策計画を策定するタイミングに来ている。今後どのような政策で空き家を利活用していくか検討をしていくこととなる。

具体的に立地適正化計画を策定する話となると、区域設定が必要となる。居住を誘導する区域や、都市機能を誘導する区域を設定し検討することになり、ここに時間を要する。今後、都市計画マスタープランを策定するなかで、立地適正化計画を見据えて何かしらの文章を入れる形で策定ができればと考えている。

委員長 ご指摘の4点は、重要な話である。山陽小野田市としてのスタンスを明確にしていけないと大変なことになる。全体構想の説明がこの後にあり、次回から地域別構想の話が出てくるので、そこで先程の4点のご指摘があった内容は、是非事務局で積極的な記述をしていただき、ここで議論したい。

立地適正化計画は策定するかどうか確定していないという事務局の回答だが、できればこの委員会でそれがどういう制度なのか15分程度で説明した方が良いのではないか。ご検討いただきたい。立地適正化計画の県内の策定予定はどうか。

委員 県内13市のうち、9市が計画の策定中である。

委員 人口減少、少子高齢化は止められない。原因を考えると、市町村合併に間違いがあったのではないかと感じる。期が熟していないうちに合併してしまった。このことにより、埴生、厚狭の商店街は衰退してしまった。役場があり、農協があり、人口があったから商店街に人が行き、物を買って、生活ができた。何も残っていないところに商店街があっても生活はできない。市町村合併が良くないとは言わないが、そのフォローができていない。

人口を増やすことについても、部署をつくり、都市計画の中で計画を立てるべきである。今は、定年退職した人が田舎に帰り、農業をしながら老後を過ごそうといった田園回帰の流れがある。山陽小野田市が良い都市であるということ在全国に発信し、PRしていかないといけない。基本理念には良いことが書いてあるが、これを実現するためには全国に発信して人を増やす考え方が必要だと思う。

委員長 市町村合併についてここで議論する余裕はないが、山陽小野田市では、人口ビジョンについては社人研のトレンドから 3,000 人増加するというようになっていて、根拠はその中に書かれている。この上乗せについて、どのような考え方で実現していくのかを簡単に教えていただきたい。また、別の計画である人口ビジョンと総合戦略で人口を増やす計画が策定済みであると理解してよいか。

事務局 人口ビジョンにおいては、山口東京理科大学の公立化と薬学部の新設によって教職員や学生が増加するため、それを加味して市内就職率を向上させ、UJI ターンの組織強化等で就職時における施策の積み上げを設定している。

出生率については、結婚・出産・子育てに関する支援を展開することによって出生率を上げることも書かれている。

委員長 出生率を上げることについては、どこの都市でも努力目標が書かれて具体的な数字が挙げられているが、UJI ターンで山陽小野田市に移住していただく、山口東京理科大学関係による学生の増加と雇用を増やして人口を増やす、の 3 つを人口ビジョン総合戦略で挙げている。その結果、社人研が出している数値よりも平成 41 年度で 3,221 人増加するということが山陽小野田市の将来人口フレームのベースになっている。都市計画もそれをベースに考えていくというのが事務局の提案である。

委員 基本目標のまとめだが、目標ということであれば、各基本理念や方針に対して何かしらの数値で表現をしたら良いのではないかと感じた。東洋経済新報社が、毎年住みやすさランキングを出しているが、独自で市場調査をしてランキングの数値にしているかと思う。山陽小野田市も毎年一定人数のアンケートをとって数値を出し、基本目標で満足度など独自の数値を示してみてもどうか。2 年毎にそれを検証してみるなど、具体的に数値を示した方が、10 年後の先の方々に検証してもらいやすいのではないかと感じる。

委員長 具体的な数値目標を出すべきではないかのご指摘だが、事務局の考えを伺いたい。

事務局 数年ごとに検証するというのは良いことだと思うが、58,000 人を目標にすることについてはあくまで目標であり、実際の数値を示すのは難しいのではないかと考えている。

委員長 都市計画マスタープランでは具体的な数値目標を示すことは難しいかもしれないが、立地適正化計画では、国は数値目標を出すように指示しているので、ご検討いただきたい。

委員 人口減少の話が出ているが、魅力がないから人口が減るということだと思う。良い学校や就職先があるなど、魅力があれば人口は流出しない。人口が増加しているところもあるので、山陽小野田市では、先に魅力のあるものをつくらないといけないと考えている。

聞くとところによると、宇部市の4分の1の人口しかいない山陽小野田市の工業出荷高は、宇部市の倍もある。それだけ見れば、宇部市一人当たりの人口の8倍もの量を山陽小野田市は出荷していることになる。

また、店舗面積が他市に比べて非常に大きいと聞いている。通常なら倒産してもおかしくない。サンパーク、マックスバリューがあり、ドラッグストアが各所にある。他市から客が来ているわけで、山陽小野田市の人口だけでは成り立たないはずである。

それを考えると、交通手段が重要である。サンパーク駅をつくるのが良いのではないか。小野田工業高校ができた時にも南小野田駅はなかったが、駅がつけられた。サンパークも駅をつくることのできるのではないか。また、サンパーク経由のバスはあるが、ターミナルを設けて他所からの顧客や高齢者や免許証を持っていない若者に対応するのはどうか。サンパークは駐車場の大きさに配慮したことで、他市から多くの客が来た。免許証を持っていない人のためにも電車やバス等の整備をすべきである。もっと魅力のある山陽小野田市をつくることを考えていただきたい。

委員長 魅力を創出することが人口減少にもストップがかかり、都市計画にも重要であるとのことである。魅力の創出の内訳であるが、雇用、住環境、特にバスのネットワークの強化、サンパーク周辺の交通体系強化を図ることが重要だという指摘かと思う。

地域別構想で具体的な施策を示すことになるかと思うが、事務局いかがか。

事務局 個別計画や地域別構想の話になるので、次回、何かしら示したい。

委員長 是非具体的なところの素案を出していただきたい。

(3) 全体構想

(事務局より説明が行われた)

- 委員長 | 赤文字については修正がかかったところである。ご意見はないか。基本理念の内容や地域別構想を踏まえて整合性を図る必要があり、そこから記載内容も変わるかもしれない。例えば「地域の実情や移動ニーズに合った持続可能な公共交通サービスのあり方や体系を検討すること」については、サンパークの利活用の話をどこまで書けるかは別として、記載内容が変わる可能性がある。それを受けて、地域別構想で書き足すところは書き足し、先程の意見も踏まえてご検討いただきたい。
- 委員 | 山口東京理科大学との交通網は、電車本数が少ない。このあたりの記述はどこにあるか。
- 事務局 | 具体的には書いていない。地域別構想でお示しする。
- 委員長 | 今見ているのは市全体の構想である。次回の4地域に分けた地域別構想で示されることになる。
- 事務局 | 分量が多いので、見ていただいてご指摘事項等があれば、個別で連絡をいただければと思う。
- 委員長 | ご指摘があれば、次回の委員会あるいは次回までの間に直接事務局に連絡いただきたい。以上で本日の議事を終了する。

4 その他

(今後のスケジュールの説明が行われた)

- 事務局 | 今後のスケジュールについて。次回の第4回改定委員会は、12月中旬頃に予定している。内容は、地域別構想の見直しと実現化方策について。日程が決まり次第ご案内する。第5回改定委員会は、2月上旬頃に予定している。内容は、最終素案の確認。その後、パブリックコメントを経て、都市計画審議会に諮問する予定である。

5 閉会

- 事務局 | 以上をもって「第3回山陽小野田市都市計画マスタープラン改定委員会」を終了する。

以上